

推薦のことば

本書は、特許実務家の間で好評を博した「英文特許100の常識」を改訂し、最近の米国の新しい動きにも対応したものである。

旧版は、実務家にとって実に便利な書物であった。R & Dに携わる研究者にとって、研究論文は最初から国境を超えたグローバルなものであるにもかかわらず、これを特許化しようとするとき、日本の特許法、アメリカの特許法、あるいはヨーロッパの特許法という枠組みに出くわす。法律家にとっては当り前のこととされているが、基本に戻って考えてみると、奇妙なことと言わねばならない。そこで、本書が生きてくる。

また、弁理士や企業の知財部員にとっても、本書は極めて便利なものと思われる。英文明細書の書き方が解説されているだけでなく、ベテランの特許実務家が備えているべき外国特許の常識が、本書の各所にちりばめられている。「プロセキューション・ヒストリー・エストoppel」、「マーカッシュ」、「ジェプソン・クレーム」などの独特の用語や概念だけでなく、「アメリカの特許専門家」というような通常の本には書いていないが実務家として知っておくべき事項も触れられている。

近年、国際的な特許訴訟が頻発している。外国における特許訴訟の渦中で経験することは、クレームは勿論のこと、明細書中のひとつひとつの言葉（英語）の重要性である。本書を読まれる方々が書かれる特許の英文が、将来の権利行使やライセンス契約の際に、キーになることは大いにありうる。

旧版の時代にもましてグローバル化が進み、特に米国で先願主義に転換をした記念すべき年の出版として、本書の出版は誠に時宜を得たものである。特許出願実務を行う方に留まらず、知財ビジネスを行う多くの方にも是非ご一読頂きたい。

多忙な実務の間に、本書をまとめられた著者の田辺徹氏、酒井將行氏に敬意を表したい。

弁護士・弁理士

米国ニューヨーク州弁護士

片 山 英 二